

第 155 号

Björk

—ビョルク(白樺)—



2019年以来3年ぶりとなる夏至祭が6月19日(日)に開催されました。今年は新型コロナウイルス感染防止対策の一環で分散開催となり、いつもスウェーデン公園で立ち上げられるマイストングが道の駅とうべつの会場で使われたため、交流センターでも中庭にオリジナルのマイストングが立てられました。

寄稿・ブネ楽器紹介

『私って、いいネ』～その人が自分らしく、いつも幸せを感じて生きて行けるように～ Bunne Japan 株式会社 日本代表 高橋 公子	2
令和4年度定時評議員会・第1回理事会報告	5
Radio Kawasaki特別オンラインシンポジウム「女性の社会進出とその課題 -日本と北欧-」 SCF評議員 東海大学名誉教授 川崎 一彦	6
連載寄稿「ソフィア・ヤンベリの『スウェーデン便り』」 ソフィア・ヤンベリ	10
広報誌「ビョルク」これまでのあゆみ⑤	12

一般財団法人スウェーデン交流センター (理事長 内野 貢)

〒061-3777 北海道石狩郡当別町スウェーデンヒルズ2329-25

TEL 0133-26-2360 FAX 0133-26-2992

http://www.swedishcenter.or.jp/ e-mail : info@swedishcenter.or.jp

スウェーデンは充実した社会福祉制度をもつ国であることは知られていますが、豊かな音楽文化を持ち、ニッケルハルパなどの伝統楽器から現代の流行をリードするポピュラー音楽まで、多様な音楽を発信し続けています。その中で「誰もが気軽に楽しめるように」…そんな願いのもと生まれた楽器が、今教育や介護の現場で注目されています。

今回はそんなスウェーデンで生まれた楽器「ブンネ楽器」の魅力について、日本でブンネ楽器の普及に務めていらっしゃるブンネジャパン株式会社の高橋公子さんにご紹介いただきます。

寄稿



Bunne Japan 株式会社 日本代表 高橋 公子



ブンネ楽器とは

ブンネ楽器は 1980 年半ば、北欧スウェーデンで誕生しました。“楽器にも音楽にもノーマライゼーションを”という音楽療法士の方では第一人者である開発者ステン・ブンネ氏の想いのもと生まれ、音楽や楽器経験の少ない方でも楽器演奏を楽しめる様に作られています。



ブンネ楽器開発者 ステン・ブンネ氏



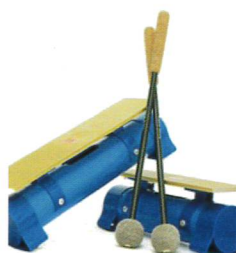
スウィングバー・ギター



ミニベース



単音フルート (全18本)



チャイムバー (全20音)

験の少ない方はどんなに音楽が好きでも、楽器演奏となると奏法の習得や読譜が必要なことから自然とその「選択肢」は限られてしまい、簡単に演奏できるタンバリン、マラカス、カスタネットなどの打楽器で参加するのが普通です。リズムは音楽の重要な要素の一つではありますがメロディーやハーモニー（コード、ベース音など）も、音楽の大部分を占める非常に重要な要素です。

皆さんはこれまでに一度は「楽器を弾きながら歌いたい」、「愛するあの人に素敵な歌をプレゼントしたい」、「バンドに参加したい」など思ったことはありませんか？難しい指使いや高度な技術や音符を必要としないブンネ楽器は仲間と一緒に楽器を演奏することを通して皆様に「幸福感」「達成感」そして「繋がり」を味わっていただくことを目的としており、誰もが簡単に弾ける楽器です。



シンプルかつ機能的なブンネ楽器の作りは細部にわたってブンネ氏の研究に基づいて考えられた工夫が取り入れられています。

音楽とは音を楽しむと書きます。ブンネ氏は平等主義スウェーデンらしく誰でも平等に音を楽しむ権利があるという情熱を持って楽器開発に臨み、その想いを形にしました。

ご高齢の方、障害や認知症を持った方、幼児、楽器経

ブンネメソッドについて

ブンネメソッドはブンネのキーワードである「私って、いいネ。」を感じてもらうためのツールです。日本の文化ではなじみの薄い「自分を褒める」「出来ている事、出来たことに目を向ける。」ということを楽器の演奏を通して体感してもらうことを目的としています。



介護施設でのブンネメソッドのようす。
演奏者の前に必ず指揮者（ブンネリーダー）がいて、皆さんはその指揮を見て楽器を演奏します。

ブンネメソッドには必ず指揮者（ブンネリーダー）がいます。その指揮者の動きを見て判断し左右の手が同時に違う動きをし、歌も歌うのでこれだけで体全体、特に脳が大きな刺激を受けます。なじみの深い歌を演奏して歌うことであの頃を思い出す、時には香りまで浮かんでくる、というように回想法にもつながります。小さなお子さんにおいてはみんなで楽器を演奏することで社会にはルールがあるということ、自分の得意なことを相手をサポートするために使うという事、自ら考えて行動する勇氣などを育てていく目的をもっています。

人間の身体的、精神的、社会的、実存的な側面の活性化を支援することで、自己肯定感、安心感、感謝、喜びなど、実は誰もが持っているポジティブな感情に働きかけます。自分らしく在ることに誇りを持ち自分を謳うことで常に心地よい状態（Well-being）に自分を置く、そうすることで自身の居場所、役割、存在意義を確認出来るようになります。



楽器演奏の経験や音楽の知識がなくても参加でき、音楽を楽しむことができます。これがブンネの魅力です。

楽器を演奏することは単に音楽を鑑賞する事よりも、脳内のネットワークがより一層活性化されると言われています。健康寿命を延ばす、認知症の予防、たとえその

ような状態になったとしても、まだ残っている機能に働きかけることで症状の緩和を狙います。ブンネメソッドは限られた専門家が行う「音楽療法」とは違い日常簡単に取り入れることができる「音楽ケア」とも言えるものです。特別に楽器演奏の経験や音楽の知識が無くても有意義な音楽活動の空間を作ることが出来ます。作る側（ブンネリーダー）も参加者同様に「私って、いいネ。」を体感することでしょう。

このような目的からブンネメソッドのゴールは音楽の完成度が一番の目的ではありません。重視することはブンネを通して一人一人が「私って、いいネ。」を感じて頂くことなのです。日常をハッピーにいきいきと！



ブンネジャパンの これまでの取り組みとこれから

これまでのブンネジャパンの活動は一部の分野に限られていました。しかし、ブンネジャパンが目指す「私って、いいネ。」は、一見プロダクトアウト（企業がもつ技術や製品化したアイデアなどをもとに、企業側の視点で商品を開発すること）に見えますが、実はすごく需要の多いマーケットイン（市場やユーザーのニーズや意見を参考に商品を開発すること）であると感じています。誰もが「私って、いいネ。」を感じて毎日をいきいきと生きることを望んでいるはずで、自身を心地よい状態（Well-being）に保つ為には、そのツールがあるとよりその状態を保ちやすくなると考えます。そのツールとしてブンネを使って欲しいと心から願っています。ブンネは限られた分野ではなく、あらゆる分野でそれを狙うことができるのです。



人はどうしても、生まれたら亡くなります。その過程にはうれしい事ばかりではなく、苦しい事、思ってもみなかったこと、なんで私だけ?と思う事、孤独を感じる事、様々なことが起こります。年を重ねることに不安や諦めを感じることなく、例え病気になったとしても、認知症になったとしても毎日をワクワク、いきいきと過ごすことで健康的な毎日を過ごすことが出来ます。健康的とは病気や悪い所は一つもない状態ということではなく、心身ともに安定した状態のことを言う、という定義があります。私はこの健康社会学者であったアーロン・アントノフスキーの健康生成論に強く賛同します。この世に生を受けたなら、人々は一人残らず平等に最期のその瞬間まで毎日毎分毎秒に幸福を感じる権利があります。そのお手伝いをブンネが出来ればと心から願ってやみません。ブンネはあなたに、あなたらしさをプレゼントします。

「私って、いいネ。」

ご寄稿者紹介

たかはし きみこ
高橋 公子



日本初の女医である荻野吟子の家系に生まれる。幼い頃から大手広告代理店で活躍した父に憧れ、父の背中を追いかけ続ける。学生時代は経営学、マーケティングを専攻する。株式会社伊勢丹（現三越伊勢丹）、株式会社オリエンタルランド、博報堂、三菱倉庫、第一生命保険でエリア1位を獲得するなど営業としての経験を積む。その後スウェーデンオーガニックブランドの立上げ、大手百貨店などへ販路を確立し、外資系リクルーティング会社にて経験を積む。現在 BunneJapan 株式会社日本代表。

アイルランド留学経験から国際的に活動中。これまでのキャリアから身につけたマッチングスキルを武器に活動を行う。



誰もが気軽に音楽が楽しめるように…そんな想いのもと生まれたスウェーデンの楽器「ブンネ楽器」、みんなで演奏してみませんか？

スウェーデン交流センター ブンネサークル はじめます！

7月より スウェーデン交流センター センターホール2階にて (参加費無料)

※月1回程度、土曜午後1時間～1時間半程度で開催予定です。新型コロナウイルス感染症の感染状況により、開始時期が遅れる場合がございます。
※基本活動費は無料ですが、別途講習会に参加する場合は講習費が必要となる場合がございます。

音楽は好きなんですけど、「楽器はやったことない…」「音符とか楽譜は読めない…」そんな方大歓迎です！
もちろんスウェーデンが好きの方、楽器が弾ける方も是非お越しください！一緒にブンネ楽器を始めましょう！
(スウィングパーギター、ミニベース、単音フルート (全音)、チャイムパー (全音) 1種類ずつあります。楽器購入を検討される方はご相談ください)

スウィングパー・ギター



単音フルート

ミニベース



チャイムパー



サークル参加申込や見学申込、ブンネ楽器などお問い合わせは、
一般財団法人スウェーデン交流センター
メール info@swedishcenter.or.jp または
お電話 0133-26-2360 (担当:高松) にて承ります。

令和3年度事業報告 / 令和4年度事業計画

令和3年度事業報告

令和3年度の評議員会および第1回理事会は、新型コロナウイルスの感染拡大による政府の緊急事態宣言と感染拡大防止に向けた活動の自粛要請を受け、書面による決議をおこないました。

【I. 評議員会・理事会の開催状況】

- ① 評議員会
 1. 定時評議員会（書面決議）
日時：令和3年6月17日（木）
内容：令和2年度事業報告、令和3年度事業計画
収支決算承認、評議員・理事・監事選任
 2. 臨時評議員会（書面決議）
日時：令和3年7月24日（土）
内容：辞任による理事の補欠選任
- ② 理事会
 1. 第1回理事会（書面決議）
日時：令和3年6月2日（水）
内容：令和2年度事業報告、令和3年度事業計画
令和3年度収支予算、顧問委嘱について
 2. 第2回理事会（書面決議）
日時：令和3年6月21日（月）
内容：理事全員改選に伴う理事長、専務理事の選任
 3. 第3回理事会
日時：令和3年11月18日（木）
場所：北海道国際交流・協力総合センター 特別会議室
内容：令和3年度上期事業報告、収支報告
顧問委嘱について

【II. 事業状況】

1. 交流事業

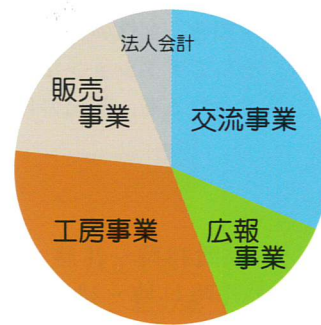
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策をとりつつ、令和3年度の事業計画に基づき、SCF館内およびオンラインでの活動を中心に企画・実施しました。

開催事業（主なものを抜粋）

- 1) 「スウェーデンの民主主義 100年」ポスター展 等
- 2) イベント SCF ユールフェア（一部内容を変更して開催）
- 3) オンラインコンサート「SCF Hemkonsert（へムコンサート）」
2. 広報事業
 - 1) 広報誌「ビョルク」の発行（年4回 各1,500部）
 - 2) スウェーデン交流センターのホームページ・フェイ
スブックの随時更新
 - 3) マスメディア・取材対応
 - 4) 資料の整備
3. 工房事業
 - 1) ガラス作品展
 - 2) 受注作品、贈答品、記念品等制作
4. 販売事業
 - 1) ガラス工房、木工房の作品の販売
 - 2) 輸入雑貨の販売

【令和3年度の収支決算】

総収入は54,431千円、総支出は78,355千円。支出のうち各種事業は73,407千円、管理費は4,947千円となり、経常増減額は-24,218千円となりました。事業費明細は下記グラフおよび表をご参照ください。



令和3年度事業費明細

交流事業	24,079 千円
広報事業	10,127 千円
工房事業	25,454 千円
販売事業	13,747 千円
法人会計	4,947 千円

令和4年度事業計画

I. 基本方針

令和4年度の事業計画は、定款に基づき、我が国とスウェーデンとの経済的・文化的交流を積極的に推進し、両国の友好親善を促進することを目的に計画します。

事業につきましては、従来通り次の4つの事業を柱に計画実施します。一昨年来続く新型コロナウイルス感染症に関する対策について、まん延防止等重点措置は3月21日に解除されましたが、その後、新規感染者数・濃厚接触者数は再び増加傾向にあり、感染症収束の見通しは立っていないことから、今年度も十分な感染拡大防止策をとりながら、新旧の企画を計画・実施します。

II. 事業内容

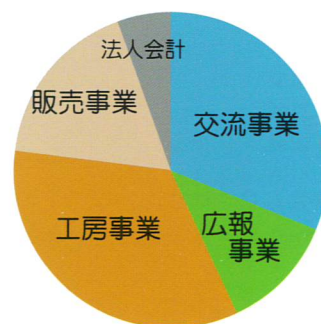
交流事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流を目的とする派遣及び招聘並びに講演会、セミナー、講習会、展示会の開催事業。

広報事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流に関する情報の公開及び図書その他刊行物の発行と、インターネットでの情報発信の事業。

工房事業：スウェーデンのハンドクラフト技術の普及、日瑞作家同士の交流を目的としたガラス工房及び木材工芸工房の運営。

販売事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流のための工芸品、民芸品及びスウェーデンデザイン雑貨等の輸入販売並びに工房の作品販売。

【令和4年度の収支予算計画】



令和4年度事業費明細

交流事業	22,269 千円
広報事業	8,034 千円
工房事業	24,247 千円
販売事業	13,596 千円
法人会計	3,299 千円

SCF 評議員を務めてくださっております東海大学名誉教授の川崎一彦先生は、毎年ワークショップやセミナーを開催し、北欧諸国の先進的な取り組みを日本にお住まいの方々に伝えています。

今回は、日本でも多くの方が関心を寄せている女性の社会進出、ジェンダー・ギャップについて、4月に開催されたオンラインシンポジウムの様子と、そこで議論された話題についてご寄稿いただきました。

Radio Kawasaki 特別オンラインシンポジウム

「女性の社会進出とその課題—日本と北欧」

東海大学名誉教授 川崎 一彦



世界経済フォーラム（WEF）による「世界ジェンダー・ギャップ指標（Global Gender Gap Index）」によれば、北欧諸国がトップにランクされている一方、日本は156か国中120位（2021年）と、世界的に見ても女性の社会進出が進んでいないという現状が浮き彫りになっています。そのような中でも、日本では改正育児介護休業法が施行され、とくにパパ育休への関心も高まっているようです。

このような背景から、北欧と日本の両方でご経験とご見識が豊かな豪華メンバーにご登壇頂き、女性の社会進出や働き方について意見交換し、そしてアクションプランの共創を目指すオンラインシンポジウムを、下記の日程で開催しました。

・日程

2022年4月27日（水） 日本時間18時～20時
（中央ヨーロッパ標準時11時～13時）

・協力

（一財）スウェーデン交流センター
（一社）スウェーデン社会研究所
（公社）北海道国際交流・協力総合センター

・プログラム

①話題提供

Marie Tsujita Stephenson
(Sweden Japan Foundation)

Kazune Funato Hallgren
(Stockholm School of Economics)

②パネルディスカッション

澤野由紀子 聖心女子大学教授

姉齒 暁 駒澤大学教授

Marie Tsujita Stephenson

Kazune Funato Hallgren

川崎一彦（コーディネーター）

今回はご登壇いただいた皆さんに、スウェーデンでの現状や、日本の現状との比較から見える課題などを挙げていただきました。



4月27日に開催したオンラインシンポジウムのようす。

パネリストのみなさんから

スウェーデンの育児休業 その現状から

Marie Tsujita Stephenson さん

1989～94年まで日本で外資系企業に勤務しました。

同僚の育児の問題をみていましたが、育児と仕事の両立は無理で、同僚はフルタイムのベビーシッターを雇って解決していました。この状況は94年以降もあまり変わらない印象を持っています。

スウェーデンの育児で一般的なのは最初の年に母親、次の年は父親が育児休暇をとるパターン。こちらのカフェなどでも子連れの父親グループをよく見ます。一方依然母親の方が一般的に給与が低いので、父親の育休は家族にとっては経済的に不利になることが多そうです。

日本で女性が家庭と育児を二者択一することなく、両立させられる社会になりつつあるのかが気になります。

スウェーデンでは専業主婦という選択肢は基本的にありません。家に残るといった選択肢はないのです。ある程度の生活を維持するためにはダブルインカムがスウェーデンでは前提となっています。



ジェンダーを意識する 必要のない社会を

Kazune Funato Hallgren さん

1995 年からスウェーデン
在住。日本では業界紙の
ジャーナリスト。スウェー
デンでは 2007 年からスト
ックホルム商科大学職員。



社会、世界の変化に伴って、
日本の社会通念を変えていく
努力が必要だと思います。日
本とスウェーデンは人口の規
模と歴史が違うので一概に比
較できませんが、男女共同参画のみならず、教育など他
の分野でも日本は意識の変化が遅いと感じています。ス
ウェーデンは変化のテンポが速いです。

社会通念の変化は簡単ではありません。「これしかない」
という解決策はないので細かなことからでも始められる
ことから始めるしかありません。たとえば男性言葉、女
性言葉なども中性に変えていくとか。

私自身もシングルマザーですが、プレスクールから学
校にはお弁当を持って行かせる必要がない、母親が病気
になった場合の疾病時の所得補償制度などのセーフ
ティーネットの効果も大きかったです。

スウェーデンも日本も共通の目標は「ジェンダーを意
識する必要のない社会」だと思います。

ジェンダーフリー教育と 日本におけるジェンダーギャップ



澤野 由紀子さん
(聖心女子大学教授)

生涯学習が専門。スウェーデンには 1994 年以来頻繁に
出張調査。2022 年 5 月からスウェーデン・ヨンショーピ
ング大学で研究予定。

UNDP (国連開発計画) のジェンダーギャップ指数
(GGI) では アイスランド、フィンランド、ノルウェー
がトップにランクされています。家事育児時間などにつ
いての国際調査なども実施しましたが、日本人の父親の
家事育児時間が少ないことが明らかになっています。ノ
ルウェーの男女共同参画についてのテキストも和訳され
ています。

日本ではジェンダーフリー教育の取り組みはある程度
進んできました。たとえば誰々「さん」呼びに統一する
など。クラスの名簿も今日は男女別ではなくミックスさ
れています。総代が女の子でも今日は不思議ではありません。

せん。一方ジェンダーに関するバックラッシュもみられ
ます。たとえば「男らしさ、女らしさの議論へのバッシ
ング」。性教育も進んでいません。

学生には北欧は人気です。北欧に行くとは日本には「女
子大」があることに驚かれます。私はまだまだ女子大の
意義は日本では高いと考えています。本学の学生は就職
活動でジェンダーの不平等に気づきます。ジェンダー
ギャップを卒業論文に取り上げる学生も多いです。セク
ハラ、パワハラ、マタハラ、男性の育休、産後鬱の問題など。

私は教育学部に所属し、教師になる卒業生も多いので
すが働き方が大きな問題です。夜 10 時頃まで仕事があ
たり前という学校も依然多いようです。

フィンランドのネウボラ (妊娠期から就学前にかけて
の子ども家族を対象とする支援制度) は、日本でも注目
されており多くの自治体が入り込んでいます。

父親の育児参加

【育児休業取得率】
女性：82.2% 男性：6.16%

【夫婦ともに育児休業を取得した場合】

- ・取得期間：1年⇒1年2カ月
- ・給付率：産後6カ月まで67%その後50%⇒一律67%
- ・産後8週間以内に父親が育児休業を取得した場合、もう一度育児休業を取得することができる

日本の父親の育児休業は恵まれていて、世界でも高く評価されている

男性が育児休業を取得しない理由

業務が繁忙で職場の人手が不足していた……27.8% ¹⁾
会社で育児休業制度が整備されていなかった……27.5% ²⁾
職場が育児休業を取得しづらい雰囲気だった……25.4% ³⁾
自分にしかできない仕事や担当している仕事があった……19.8% ⁴⁾

出典：厚生労働省、2019年、「男性の育児休業の取得状況と取得促進のための取組について」

※厚生労働省 2019年「男性の育児休業の取得状況と
取得促進のための取組について」より。

農村におけるジェンダー問題から



姉齒 暁さん
(駒澤大学教授)

2022 年 3 月までルンド大学で在外研究をしていました。
主な研究分野は農村におけるジェンダー問題です。日
本には特に中間層における主婦の再生産構造があります。
たとえば東京の結婚式場では卵焼きの作り方などを教え
る花嫁教室を開催していますが、これなどは中間層の女
性を対象とした性別役割分業の再生産システムです。

なぜ日本のジェンダー平等が遅れているのでしょ
うか？スウェーデンでは 200 年以上平和を維持し、戦前戦
中戦後という区切りがなく、男女共同参画、ジェンダー
平等の動きも継続できました。

一方、日本では、明治維新以来、富国強兵で列強諸国
に追いつこうとしながら、女性の地位については欧米の
意識が蔓延しないよう強力な内的支配が行われてきまし
た。大正デモクラシーの展開もまた、その後の侵略戦争
への道筋の中で社会変革の芽がことごとく抑圧されてき
たのです。第二次大戦後は経済第一、高度経済成長最優
先主義でやはり女性が犠牲になってきました。

その時に政府によって流布された、いわゆる「3歳児神話」も神話にすぎないのですが、今でも信じる日本人がいるくらい根を張ってしまいました。

さらに、1970年代には北欧福祉国家に対して日本型家族主義、日本型福祉社会論という幻想が振り撒かれました。北欧の自殺率が高いとかフリーセックスの国だなどといった言われなき批判を伴ってです。実際には日本では家族や子どもへの財政支出を出し渋っただけのことなのですが。

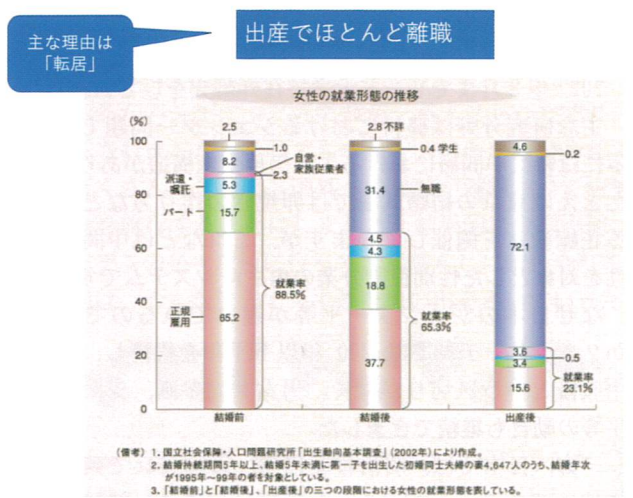
スウェーデン滞在中、日本人だとわかると「Japan as No.1」などと声をかけられましたが、これは昔のことです。日本における非白人への差別。日本の貧困。若い女性の自殺の増加。不平等の拡大。低い労働組織率（スウェーデンは70%程度で高い）近年では新自由主義の蔓延が問題を拡大しています。

日本の統計を見ると出産を機に多くの女性が離職しています。男女の賃金格差が大きい日本では男性が労働を継続し、女性が継続を断念する構造が再生産されやすいのです。

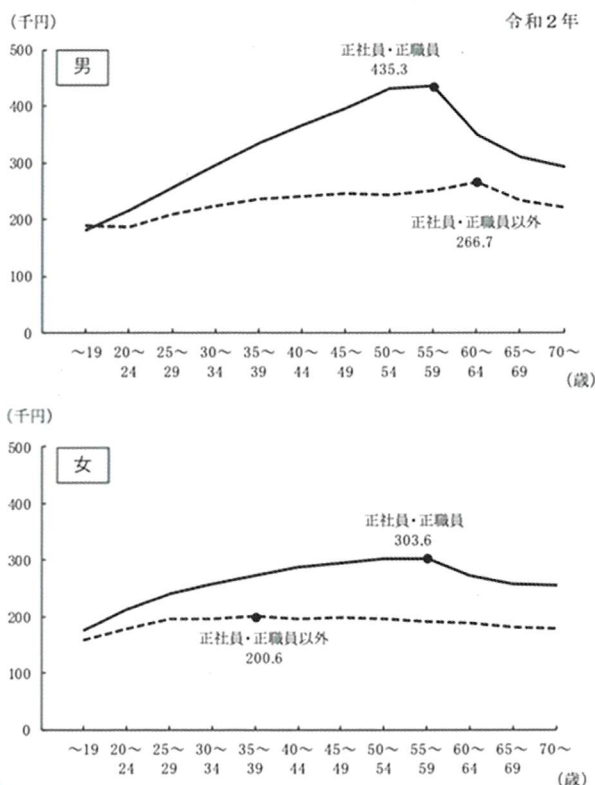
スウェーデンでは税制改革に見られるように家族単位から個人単位への社会システムの移行が進みました。スウェーデンにおけるジェンダー平等の実現にあたって、このような社会システムの移行の模索、意識の変化に向けての議論と運動、努力が積み重ねられてきたことが重要な役割を果たしました。

今、日本では支配層からの Gender backlash が顕著になってきています。男性からの反論反発も強くなっています。これもまた日本社会の不平等貧困の進展、深刻化の反映でしょう。一方スウェーデンでも右翼政党の台頭、反イスラムの動きなど問題は膨らむ一方です。ジェンダー平等の問題、経済社会変革、一筋縄では行かない課題をスウェーデンも日本も共通に抱えており、問題の再構成が必要です。

女性の就業形態の推移



総務庁「賃金構造基本統計調査」2021年



おわりに

2020年以降、「ポストコロナ社会の働き方、学び方、生き方」をテーマにオンラインワークショップを開催してきましたが、ジェンダー問題はご希望の多いテーマでした。この機会に皆様にもアクションプランをお考え頂きたいものです。

私自身は北部スウェーデンと北海道の交流の再開に向けてのアクションを考え中です。スウェーデン北部4県の知事はすべて女性。北部スウェーデンはジェンダー問題だけではなく、ゼロカーボン産業でも今世界で注目されています。

このシンポジウムに際し、スウェーデン最北ノルボotten県のロッタ・フィンストルプ知事から下のメッセージを頂きました。知事は国会議員時代、日本も視察され日本の大ファンです。

ノルボotten県 ロッタ・フィンストルプ知事より



北部スウェーデン4県の知事はすべて女性です。さらに自動車用バッテリーや水素による製鉄などサステナブル産業が大盛況で世界的に注目されています。1990年代には北海道と北部スウェーデンの交流が盛んでしたが、新たな交流の再開に期待したいものです。

北部スウェーデンの取り組みやフィンストルプ知事については、152号掲載のインタビュー記事をご覧ください。

SCF REPORT



SCF イベント報告

第37回夏至祭

2022年
6月19日(日)

2019年以來3年ぶりとなる当別町とスウェーデンヒルズの夏の一大イベント「夏至祭」が、6月19日(日)に開催されました。新型コロナウイルス感染防止対策の一環で、道の駅とうべつの会場とスウェーデンヒルズ会場の二会場での分散開催となりましたが、多くの方が両会場に足をはこびました。



5月からおこなっているスウェーデン語の展示も大好評でした。



ガラスマーケットは朝から大盛況でした。



SCF 中庭にもマイストングが立ち、多くの方がセンターホールをバックに写真を撮っていました。



ガラス工房では、ペーパーウエイトの制作をおこないました。



木工房での制作体験は、木型を切り出しての時計づくりでした。



これまでスウェーデン公園に立てられていたマイストング。今回は道の駅とうべつに立ちました。



スウェーデン公園でのカップ体験は、子どもから大人まで楽しんでいました。



三遊亭好青年さんによるオンライン落語。質疑応答も盛り上がりました。

2 月一回の「フィーカ」再開しました。

新型コロナウイルス感染拡大により永らく開催できていなかった対面でのイベントも、感染防止対策やワクチン接種が進んだことで全国各地で開催されるようになってきましたね。SCF のイベントも、少しずつ再開させています。

SCF でも月一回おこなってきたフィーカを、感染防止対策をしつつも初夏の雰囲気を楽しめるよう「野外フィーカ」として再開しました。

5月に SCF 隣のスウェーデン公園でおこなった第1回目の野外フィーカには多くの方にご参加いただき、楽しい「フィーカ」を開催することができました。今後も月一回のペースで開催していこうと思いますので、フィーカに興味のある方、スウェーデンのことでお話をしたいという方、ぜひご参加くださいね！



参加した方からは、「スウェーデンのお話を聞くことができ楽しかった」といった感想や「これからも毎月続けてほしい」という感想をいただきました。

ビョルクでは、これまでに多くのスウェーデン人から寄稿をいただいております、色々なジャンル・視点からスウェーデンの情報をお寄せいただいております。

136号から153号まで、およそ4年間の記事を書いてくださったソフィア・マルムさんに代わり、2018年から2019年までSCFスタッフとして働き、現在はスウェーデンで活躍されているソフィア・ヤンベリさんに今のスウェーデンを伝えていただきます。

連載
寄稿

ソフィア・ヤンベリの

スウェーデン便り

Brevet från Sverige by Sofia Jernberg

寄稿：ソフィア・ヤンベリ

Första 第1回

スウェーデンにも 夏がやってきました!

皆さん、お久しぶりです！もとSCFスタッフのソフィア・ヤンベリです。今年の10月には、私がスウェーデンに帰国して3年になります。スウェーデンでは私の家族やスウェーデン人の友達にたくさん会えるのは嬉しいですし、スウェーデンでの生活を楽しんでいます…やっぱり、日本が恋しいです。札幌の街中を歩いたり、メロンパンを食べたり、友達とカラオケに行ったりしたいです。もちろんスウェーデンでも散歩はできますけど、街の雰囲気が違います。ストックホルムにも美味しいパン屋さんがあります、でも札幌の街中で売っているような焼きたてメロンパンはこちらにはありません。カラオケは…最近カラオケができるバーがオープンしたんです。でもとっても高くて、しかも日本の曲は入っていないんですよ…。

帰国してから半年ぐらい経った頃から、新型コロナウイルスのパンデミックが始まりました。今回のコロナウイルスパンデミックは、個人的なレベルでも、社会的なレベルでも、そして世界的なレベルでも大きな影響を及ぼしました。私にとって大きな出来事だったことの一つに、日本に行けなくなったことがあります。もちろん、それは世界や社会に与えた影響に比べたら大したことではないのですが、20歳になってからの人生の半分ぐらいを日本で過ごした私には、とても悲しいことでした。

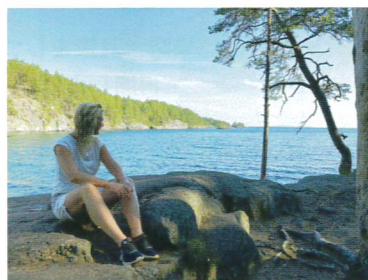
スウェーデンには、旅行をするのが好きな人がとても多いです。スペイン、タイ、イタリア、台湾、日本…多くのスウェーデン人は毎年長い休みをとって、旅に出ます。しかし、パンデミックの影響で長い間それができなくなっていました。スウェーデン人が一体何をしようか。

もちろんパンデミックの影響が一番大きかった頃は、スウェーデンでも多くの人とその期間自分の家で過ごすことを余儀なくされました。それでもウィルスの広がりが少なくなった夏には、家で大人しくしてはいらなかったスウェーデン人がたくさんいました。国外への渡航が制限されて海外への旅行が思うようにできなくなったスウェーデン人は、代わりに国内を旅行することにしました。結果的に今国内旅行が非常に人気が高くなっています。私も、両親や友達と一緒にスウェーデンの色々な所に行って、素晴らしい景色や町をたくさん見て回りました！

今回は、そんな旅先で見てきた思い出を書いていきたいと思います！



スウェーデン国内を旅行するのは久しぶりでしたが、綺麗な場所がたくさん見ることができてよかったです。国内旅行はこれからも行きたいんですけど、多くのスウェーデン人が望んでいるように、やっぱり海外旅行にも行きたいです！パンデミックによる渡航制限がなくなったスウェーデンでは、ストックホルムに住む多くの人たちが同じことを考えてるそ



うです。そんなこともあって空港のカウンターやセキュリティゲートで並ぶ人の列がこれまでに見たことないほど長くなって、セキュリティーが3時間もかかる状態です！

そんなスウェーデン人には旅行より好きなものがあります。それは何かというと、そう、これからシーズンを迎える夏です！ストックホルムもようやく夏らしくなってきました。



この時期スウェーデンの人たちは、屋内レストランやバーに行くよりも、みんな野外の店やテラス席のあるお店に行きます。テラス、ベランダ、そして道端に置かれている椅子にさえも夏の太陽の日差しと暖かさを感じて楽しんでいます。今年特に流行っているのが、屋上テラスですね！

夏には同僚も家族も、みんな金曜日に仕事が終わったら外で飲み会を楽しみます。この飲み会で特に人気なお酒の入っている飲み物が2つあって、それはロゼワインと、アペロールスプリッツ (Aperol Spritz) というカクテ

ルです！どれも飲みやすく、すっきりとした飲み口のお酒です！

お酒が嫌な人には、アイスが完璧です！色々な美味しい味があって、最近人気なのは「Brynt smör」、ブラウンバターです！甘すぎないで、さわやかな味がするので、大人の好きな味です！ブラウンバターの味がとても人気で、色々な料理で使われるようになりました。

スウェーデンに来た時には、ぜひこのカクテルやアイスを食べてみてくださいね！



ストックホルムや街中に住む人たちは特に、週末になったらリフレッシュするために自然が綺麗な所に行きます。森も海も人気のスポットになっています。私の家の近くにはちょうどハイキングにピッタリな森があって、ほぼ毎週ハイキングしに行きます。心も体も癒されますね！スウェーデンの人は、雨の日でも晴れた日でも、必ずハイキングをしています。

帰国してからスウェーデンで過ごしてきた時間は、コロナのこともありましたが、貴重な時間と機会になりました。海外に行けなかったことで、却って自分の国の綺麗な所、良い所をたくさん見ることができたからです。日本の冬はスウェーデンほど長くなく、暗くないので、夏に対するイメージや思いが少し違うかも知れませんが、私にとってやっぱりスウェーデンの夏の雰囲気はお祭りのような感じです。皆さんも、もしスウェーデンに来る機会があれば、夏をお勧めします！

それでも、私はやっぱり日本のことを懐かしく感じているので、行けるようになったらできるだけ早くまた行きたいと思っています！観光客としてでも、昔住んでいた町を歩いたり、日本人の友達と遊んだり…日本の綺麗な景色がまた見たいです。それまでは、スウェーデンを目いっぱい楽しむつもりです！



Author … ソフィア・ヤンベリ Sofia Jernberg



1993年ストックホルム生まれ。ストックホルム大学日本研究学科在学中の2013年に初来日。南山大学に留学後、帰国してストックホルム大学を卒業。2016～17年上智大学に留学。2018年～19年スウェーデン交流センター(北海道当別町)に勤務。現在、スウェーデンの特許法律事務所に勤務。『ぼくが小さなプライド・パレード 北欧スウェーデンのLGBT+』の著者。

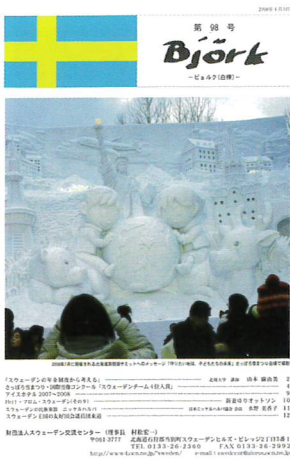
Björk これまでのあゆみ ⑤

この広報誌「ビョルク」は、これまで多くの方のご協力のもとに作られ、SCFの活動を紹介するだけでなく、スウェーデンの文化や経済を紹介してまいりました。

第150号発行に際し、150号から数回に分けて第1号からこれまでのビョルクの表紙をご紹介します。SCFを設立時からご存知の方も、新たにこの広報誌をご覧になった方も、当時の様子に想いを馳せていただけたらと思います。第5回目の今回は、第98号から第137号までをご紹介します。

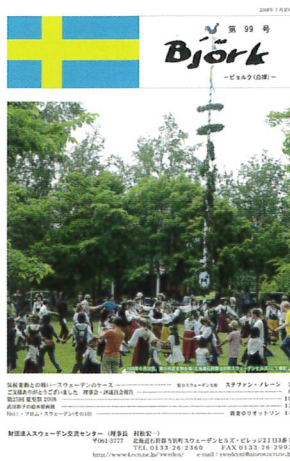
第98号

2008年4月10日発行



第99号

2008年7月20日発行



第100号

2008年10月1日発行



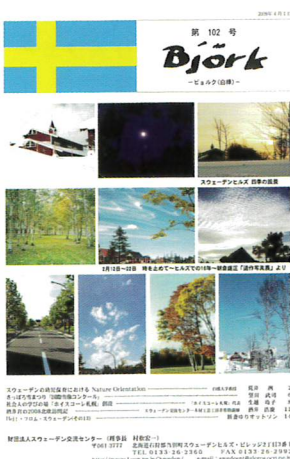
第101号

2009年1月1日発行



第102号

2009年4月1日発行



第103号

2009年7月20日発行



第104号

2009年10月1日発行



第105号

2010年1月1日発行



2008年3月には、スウェーデンの国会議員が来日し、SCFをはじめ道内各地を視察されました。スウェーデンの国会議員団はその後2016年にも訪問されるなど、日本との友好親善や経済・文化の交流を図る取り組みは今も続いています。

第106号

2010年4月1日発行

2010年4月1日発行

第106号
Björk
—ビョルク(白鹿)—



第106号の特集は「スウェーデンのスキー文化」です。スウェーデンのスキー文化は、長い歴史と伝統を持ち、世界中から多くの観光客を魅了しています。本誌では、スウェーデンのスキー文化の魅力を詳しく紹介しています。

編集長 佐藤 隆一
〒061-3777 東京都中央区新富町1-1-1 11階 1110号室
TEL 03-353-26-2366 FAX 03-353-26-2992
http://www.nakanishi-printing.co.jp/ e-mail: info@nakanishi-printing.co.jp

第107号

2010年7月10日発行

2010年7月10日発行

第107号
Björk
—ビョルク(白鹿)—



第107号の特集は「日本の祭文化」です。日本には数多くの祭文化があり、それぞれに独特の魅力があります。本誌では、日本の祭文化の魅力を詳しく紹介しています。

編集長 佐藤 隆一
〒061-3777 東京都中央区新富町1-1-1 11階 1110号室
TEL 03-353-26-2366 FAX 03-353-26-2992
http://www.nakanishi-printing.co.jp/ e-mail: info@nakanishi-printing.co.jp

第108号

2010年10月20日発行

2010年10月20日発行

第108号
Björk
—ビョルク(白鹿)—



第108号の特集は「日本の祭文化」です。日本には数多くの祭文化があり、それぞれに独特の魅力があります。本誌では、日本の祭文化の魅力を詳しく紹介しています。

編集長 佐藤 隆一
〒061-3777 東京都中央区新富町1-1-1 11階 1110号室
TEL 03-353-26-2366 FAX 03-353-26-2992
http://www.nakanishi-printing.co.jp/ e-mail: info@nakanishi-printing.co.jp

第109号

2011年1月1日発行

2011年1月1日発行

第109号
Björk
—ビョルク(白鹿)—



第109号の特集は「日本の祭文化」です。日本には数多くの祭文化があり、それぞれに独特の魅力があります。本誌では、日本の祭文化の魅力を詳しく紹介しています。

編集長 佐藤 隆一
〒061-3777 東京都中央区新富町1-1-1 11階 1110号室
TEL 03-353-26-2366 FAX 03-353-26-2992
http://www.nakanishi-printing.co.jp/ e-mail: info@nakanishi-printing.co.jp

第110号

2011年4月1日発行

2011年4月1日発行

第110号
Björk
—ビョルク(白鹿)—



第110号の特集は「日本のゲーム文化」です。日本には数多くのゲーム文化があり、それぞれに独特の魅力があります。本誌では、日本のゲーム文化の魅力を詳しく紹介しています。

編集長 佐藤 隆一
〒061-3777 東京都中央区新富町1-1-1 11階 1110号室
TEL 03-353-26-2366 FAX 03-353-26-2992
http://www.nakanishi-printing.co.jp/ e-mail: info@nakanishi-printing.co.jp

第111号

2011年7月10日発行

2011年7月10日発行

第111号
Björk
—ビョルク(白鹿)—



Sveriges Symbol
Dalahäst
スウェーデンのシンボル ダラヘスト

第111号の特集は「スウェーデンの民俗芸術」です。スウェーデンには数多くの民俗芸術があり、それぞれに独特の魅力があります。本誌では、スウェーデンの民俗芸術の魅力を詳しく紹介しています。

編集長 佐藤 隆一
〒061-3777 東京都中央区新富町1-1-1 11階 1110号室
TEL 03-353-26-2366 FAX 03-353-26-2992
http://www.nakanishi-printing.co.jp/ e-mail: info@nakanishi-printing.co.jp

第112号

2011年10月1日発行

2011年10月1日発行

第112号
Björk
—ビョルク(白鹿)—



第112号の特集は「日本の食文化」です。日本には数多くの食文化があり、それぞれに独特の魅力があります。本誌では、日本の食文化の魅力を詳しく紹介しています。

編集長 佐藤 隆一
〒061-3777 東京都中央区新富町1-1-1 11階 1110号室
TEL 03-353-26-2366 FAX 03-353-26-2992
http://www.nakanishi-printing.co.jp/ e-mail: info@nakanishi-printing.co.jp

第113号

2012年1月1日発行

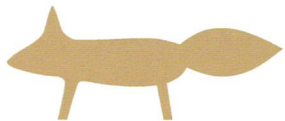
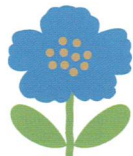
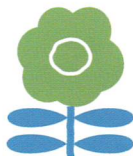
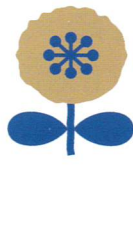
2012年1月1日発行

第113号
Björk
—ビョルク(白鹿)—



第113号の特集は「日本の祭文化」です。日本には数多くの祭文化があり、それぞれに独特の魅力があります。本誌では、日本の祭文化の魅力を詳しく紹介しています。

編集長 佐藤 隆一
〒061-3777 東京都中央区新富町1-1-1 11階 1110号室
TEL 03-353-26-2366 FAX 03-353-26-2992
http://www.nakanishi-printing.co.jp/ e-mail: info@nakanishi-printing.co.jp



発見力
つながりをもつける力

[業務内容]
美術、書道作品集・記念誌・町史・チラシ・ハガキ・
パンフレット・自費出版・インターネット事業・
各種イベント 他



NAKANISHI PRINTING CO., LTD.
中西印刷株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号
TEL (011) 781-7501 FAX (011) 781-7516
http://www.nakanishi-printing.co.jp/

第126号

2015年4月10日発行

第126号
—ビョルク(白黒)—

TITLIS R MOUNTAIN Ford Proud and the

END 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 TOTAL
DEN 100 0 1 4 ED
SWE 0 1 10 6

LUZERN
ТІСБІБІ
COME TO
UCER

PROFIC AEROLIC

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2015年3月21日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第127号

2015年7月10日発行

第127号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2015年7月10日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第128号

2015年10月1日発行

第128号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2015年10月1日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第129号

2016年1月1日発行

第129号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2016年1月1日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第130号

2016年4月1日発行

第130号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2016年4月1日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第131号

2016年7月10日発行

第131号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2016年7月10日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第132号

2016年10月1日発行

第132号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2016年10月1日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第133号

2017年1月1日発行

第133号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2017年1月1日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第134号

2017年4月1日発行

第134号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2017年4月1日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第135号

2017年7月10日発行

第135号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2017年7月10日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

第136号

2017年10月1日発行

第136号
—ビョルク(白黒)—

スウェーデンに広がる自然と、その自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。そしてその自然を愛する人々の暮らし。

—取材法人スウェーデン交流センター(理事 村松 浩一) 発行 2017年10月1日
〒901-8377 岩手県盛岡市青森町スウェーデンビルディングビル2階3号室
TEL 0133-24-2368 FAX 0133-24-2392
http://www.swebcenter.or.jp/ e-mail: info@swebcenter.or.jp

スマートフォンをお持ちの方は、**ビョルクのバックナンバー**をこちらからお読みいただけます。



気分は北欧生活。

スウェーデンヒルズ Since 1984
Sweden Hills 

札幌郊外の丘に北欧の街並。 スウェーデンヒルズ。

大都市近郊でありながら自然に囲まれた美しい街並。
「人が人らしく、自然と調和して豊かに暮らす」を理想に、
スウェーデンの住環境を再現した住宅地として誕生以来30年。
美しい風景の中で約300家族の暮らしが息づいています。

0120-242-522 [スウェーデンヒルズ](#) [検索](#)

スウェーデンヒルズウエスト地区レクサンド公園

賛助会員入会のお願い

一般財団法人スウェーデン交流センターは、ガラス作品や木工作品の制作などを通して多方面での交流を行うとともに、夏至祭、ルシア祭、各種展覧会など、年間を通して様々な催しを行い、スウェーデン文化の紹介を積極的に行なっています。

これらの催しは、当センターの趣旨にご賛同くださる皆様のご厚意によって支えられております。賛助会員の皆様には、この広報誌『ピョルク』を年4回ご自宅まで郵送いたしますほか、センター主催のイベントへのご招待や当センターガラス工房制作の吹きガラス販売品・スウェーデン雑誌を優待価格にてご案内しております。ぜひこの機会に賛助会員にご入会下さいますよう、よろしくお願いたします。

賛助個人会員	年会費	—□	5,000円
賛助法人会員	年会費	—□	20,000円

あともがき

●2019年以来3年ぶりとなる「夏至祭」が当地で開催されました。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、道の駅とうべつとスウェーデンヒルズの二会場に分かれての開催となりましたが、来年は以前と同じように、スウェーデンヒルズでマイストングの立ち上げやリースの行進、フォークダンスを見たいものですね！

●136号から153号まで、およそ4年もの間スウェーデンの今を伝えてくださったソフィア・マルムさん。日本とスウェーデンとをつないでいくために、新たなビジネスを展開しています。スウェーデンに行ってみたくという方、スウェーデン語を勉強したいという方、スウェーデンのことを知りたいという方…ぜひソフィアさんに声をかけてみてくださいね！